

| | | | | | | | | | | |
|------|-----|----------|------|-----|------|----|-----|------------------|-----|------------------|
| 政策分野 | 003 | 医療・保健・福祉 | 政策項目 | 005 | 地域福祉 | 施策 | 001 | 社会参加と地域支え合い活動の推進 | 担当課 | 福祉課高齢者・介護・医療グループ |
|------|-----|----------|------|-----|------|----|-----|------------------|-----|------------------|

| 番号 | 計画事業名 | 区分 | 事業開始年度 | 事業終了年度 |
|-----|-----------------------------|----|--------|--------|
| 080 | 高齢者の社会参加と地域の支え合い活動の充実を図ります。 | 充実 | 令和5年度 | 令和12年度 |

| | 指標項目 | 基準値(R3) | 前期(R8)目標値 | 後期(R12)目標値 | 年度ごとの実績値 | | | | 達成率 | 指標設定の考え方 |
|------|--------------------------------|---------|-----------|------------|----------|-------|-------|-------|------|---|
| | | | | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | | |
| 活動指標 | I 生活支援体制整備事業協議体会議（単位：回） | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | | 0% | I・II 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らす続けるために必要な生活支援体制の充実・強化を図る |
| | II ボランティア登録人数（単位：名） | 10 | 20 | 30 | 16 | 23 | 29 | | 145% | |
| 成果指標 | I まちなかカフェ利用人数（月平均）（単位：名） | 233 | 500 | 700 | 322 | 530 | 615 | | 123% | I・II 地域に住む多世代が自由に参加でき、主体的に関わることで自分を生かしながら過ごせる場所になり、そこのふれあいが地域で助け合うきっかけにつながる |
| | II 高齢者・見守り安心ネットワーク登録企業数（単位：企業） | 50 | 70 | 90 | 70 | 71 | 71 | | 101% | |

【担当課評価】

| 項目 | 事業把握 |
|-----------------------------|---|
| 主な事業実績 | <ul style="list-style-type: none"> 生活支援体制整備事業協議体会議は上期未開催 ボランティア登録数は29名（内訳：ケアラーサポーター15名 生活支援有償ボランティア14名） まちなかカフェ（ケアラズカフェ「サタの笑顔」）は、月平均615人が利用（町社会福祉協議会の指定管理業務） |
| 施策の分析 （目標達成・未達成に関する要因分析） | <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援体制整備事業協議体会議は、関連事業の年度実績報告を目的に、年度未開催を予定。内容は、日出地区における移動販売車（コープさっぽろ）導入後のモニタリング報告、見守り・安心ネットワークの事例及び実績報告の他、認知症施策と連動し、今年度新たに「栗山町見守り・安心キーホルダー」を作成・交付することとしたことから、その取組及び交付実績報告等を予定している。 生活支援有償ボランティア（ちよこっとボランティア）の養成については、徐々にではあるがサービス利用者が増加傾向にあり、ボランティア数も増加傾向であるが、さらなる担い手発掘・体制整備が求められる。ケアラーサポーター養成講座については上期未実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちなかカフェの利用数は、コロナ禍が明けて以降、増加してきており、新たな利用者の定着も見られてきている。 見守り・安心ネットワークの登録企業数は、横ばい・維持の状況にある。 |
| 課題・問題点 | <ul style="list-style-type: none"> まちなかカフェは、令和6年度より利用者が増加しているが、コロナ禍以前の水準（年間8,000人以上）には戻っていない。 ボランティアの養成については、就労している高齢者の増加の影響や、現登録ボランティア自体の高齢化の現状もあり、活動の充実に限界が生じていることから、新たな人材発掘とその体制整備が課題となっている。 町民・関係機関の認知向上に向け「見守り・安心キーホルダー」（令和7年10月より開始）の初動的な周知推進が必要である。 |

| | |
|--|---|
| 今後の展開・方向性 （国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等） | <p>【まちなかカフェの運営・推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアラーを含む「高齢者の集いの場・居場所」づくりを目的としており、指定管理者及び関係機関（消費者協会、介護事業所等）との連携による諸行事の企画実施などにより、さらなる利用者増を目指す。 <p>【ボランティア育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴミ出し、灯油の運搬などの日常的なボランティア支援（ちよこっとボランティア）を求める方のケアマネージャー、町内会等と連携し、ボランティア登録の輪を広げていく。 <p>【生活支援体制整備事業の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 角田・継立地区および日出地区は移動販売車の周知を継続的に行う（住民の認知度向上）。 継立地区では、「遊歩道の駅」（ハロー-ENJOY）による地域食堂その他の活動が展開されており、ホームページ掲載などにより、積極周知及び活動サポートを行っている。 「見守り・安心キーホルダー」は本年度より開始した事業であり、その住民周知を積極的に行っていく。 |
|--|---|

【総合評価】

| 区分 | 評価内容・指示事項 |
|----------------|---|
| 1次評価 （担当課長） | <p>①計画通りに進める</p> <p>事業全体において、指標（目標）を踏まえた一定の事業進捗が図られているが、引き続き、町社会福祉協議会と連携を密にし、左記の課題及び今後の方向性等を踏まえ、各事業の利用者・登録者の増を目指し、着実な取組を進めること。</p> <p>また、生活支援体制整備事業においては、新たな取組である「見守り・安心キーホルダー」の認知度向上に向け、要支援者のみならず、広く町民の理解促進を図るとともに、生活支援コーディネーターを中心に、協議体会議において地域課題を共有し、引き続き、課題解決に向けた新たなサービスの調査検討に努めること。</p> |
| 2次評価 （副町長） | <p>①計画通りに進める</p> <p>一次評価に加え、政策評価委員会（外部評価）の結果内容に基づき進めること。</p> |
| 外部評価 | <p>①計画通りに進める</p> <p>栗山町政策評価委員会報告書のとおり。</p> |
| 最終評価 （町長） | <p>①計画通りに進める</p> <p>二次評価のとおり。</p> |

| | | | | | | | | | | |
|------|-----------------|----------|------|-----|------|----|-----|------------------|--------|------------------|
| 政策分野 | 003 | 医療・保健・福祉 | 政策項目 | 005 | 地域福祉 | 施策 | 001 | 社会参加と地域支え合い活動の推進 | 担当課 | 福祉課高齢者・介護・医療グループ |
| 番号 | 計画事業名 | | | | | | | 区分 | 事業開始年度 | 事業終了年度 |
| 081 | ケアラー支援の充実を図ります。 | | | | | | | 充実 | 令和5年度 | 令和12年度 |

| | 指標項目 | 基準値(R3) | 前期(R8) 目標値 | 後期(R12) 目標値 | 年度ごとの実績値 | | | | 達成率 | 指標設定の考え方 |
|------|------------------------|---------|---------------|----------------|----------|-------|-------|-------|---|----------|
| | | | | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | | |
| 活動指標 | I ケアラー支援推進協議会（単位：回） | 4 | 3 | 3 | 3 | 2 | 1 | 33% | I 家族など無償の介護者等（ケアラー）支援事業の現状分析や今後の取り組み等について協議し、栗山町における地域福祉の向上を図る | |
| | II 高齢者活動拠点施設の整備（単位：箇所） | 4 | 6 | 8 | 4 | 4 | 4 | 67% | II 高齢者の家の中での引きこもり、地域での孤立等を防ぐためには、地域のだれもが気軽に立ち寄れる居場所づくりを進めることが効果的である | |
| 成果指標 | I ケアラーサポーター人数（単位：人） | 11 | 20 | 30 | 11 | 11 | 15 | 75% | I ケアラーサポーターが高齢者世帯を訪問し、生活実態や生活サービスを把握することで、地域で安心・安全に住み続けられる事業展開につなげる | |
| | II スマイルサポーター相談件数（単位：件） | 40 | 60 | 80 | 130 | 320 | 159 | 265% | II ケアラー支援専門員（通称：スマイルサポーター）がケアラーの相談窓口やリフレッシュ講座などの交流会を通してケアラー支援につなげる | |

【担当課評価】

| 項目 | 事業把握 |
|-----------------------------|---|
| 主な事業実績 | ケアラー支援推進協議会は1回実施している。 高齢者活動拠点施設の整備は4か所整備し、現状維持している。 |
| 施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析) | 【活動指標】協議体会議の実施回数は、基準値を達成見込み、高齢者の活動拠点施設の整備は、整備可能か地域との協議を検討する。 【成果指標】ケアラーサポーターの養成は、今後継続的に募集を進める。また、スマイルサポーターの相談は、ケアラーサポーターの訪問活動とタイアップし、アウトリーチ型で、町民から相談を受け付けるために、活動が増加している。相談件数は159件。 |
| 課題・問題点 | ・ケアラー支援推進協議会は、計画策定年により、回数に変動がある。 ・第2期ケアラー支援推進計画において、ケアラーサポーターの訪問活動の対象者拡大を掲げており、その具体的な方法を活動母体である社会福祉協議会と協議して進めていく。 |

| | |
|--|---|
| 今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等) | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より、栗山町ケアラー支援推進月間を実施、広報啓発活動に力を入れており、次年度の月間にあたってのイベント企画を立案する。 ・ケアラーサポーター養成と支援対象者の拡大にあたっては、ケアラーサポーター養成講座の開催を予定しており、マンパワーの確保を図り体制を整える予定でもある。 ・ケアラーの生活課題を分析し、マネジメントするケアラーアセスメントの実施にあたり、社会福祉協議会のケアラー支援室を軸とした支援体制を敷くことで、適切なアセスメントに伴うマネジメント環境や、支援者へのスーパーバイズができる体制を構築するための準備を行い次年度に繋げる予定である。 ・社会的に注目されているヤングケアラー支援は、出前講座による子ども・教員への周知・啓発活動を行っており、今後とも継続するの併せて、実態調査を予定しておりその集計と分析に併せて、学校側とケース会議を行い支援に関しての情報の共有化と対応方針を協議する。 |
|--|---|

【総合評価】

| 区分 | 評価内容・指示事項 |
|----------------|---|
| 1次評価 (担当課長) | ①計画通りに進める ケアラーサポーターによる訪問活動の拡充を図るための人材養成と、活動の適切なマネジメントを行う体制とケアラーアセスメントを活用したケアラーマネジメント体制を社会福祉協議会や関係機関と連携し推進すること。ケアラー・ヤングケアラー支援に関する情報発信・支援体制の構築に努め、第2期計画に掲げる支援策を一層推進すること。 |
| 2次評価 (副町長) | ①計画通りに進める 一次評価に加え、高齢者活動拠点施設の整備については現状の実態を踏まえ、目標値の見直しを行うほか、より多くの対象者が現在運営している施設への利用につながるよう努めること。 |
| 外部評価 | ※評価対象外 |
| 最終評価 (町長) | ④改善を検討（その他） 二次評価結果における指示事項を進めるとともに、高齢者活動拠点施設の整備については改めて錦地区の現状を把握しながら働きかけていくこと。また、高齢者世帯訪問などによるケアラーアセスメントを着実に進めるためにも、ケアラーサポーターの育成・確保に向け、社会福祉協議会と協議しながら実施内容の見直しを進めること。 |

| | | | | | | | | | | |
|------|---------------------|----------|------|-----|------|----|-----|----------|--------|---------------|
| 政策分野 | 003 | 医療・保健・福祉 | 政策項目 | 005 | 地域福祉 | 施策 | 002 | 公共施設長寿命化 | 担当課 | 社会教育課社会教育グループ |
| 番号 | 計画事業名 | | | | | | | 区分 | 事業開始年度 | 事業終了年度 |
| 082 | 総合福祉センターの長寿命化を図ります。 | | | | | | | 継続 | 令和5年度 | 令和12年度 |

| | 指標項目 | 基準値(R3) | 前期(R8)目標値 | 後期(R12)目標値 | 年度ごとの実績値 | | | | 達成率 | 指標設定の考え方 |
|------|------------|---------|-----------|------------|----------|-------|-------|-------|-----|---------------|
| | | | | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | | |
| 活動指標 | I 施設改修数 | - | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | | 0% | I 施設改修工事数を設定 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 成果指標 | I 施設改修の進捗率 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 0 | | 0% | I 施設改修の進捗率を設定 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

【担当課評価】

| 項目 | 事業把握 |
|-----------------------------|--|
| 主な事業実績 | 下期実施予定（高圧引込ケーブル改修（9月補正）3,146千円 |
| 施策の分析 （目標達成・未達成に関する要因分析） | 当初計画していなかったが、点検にて改修が必要な個所が確認され下期に改修予定。 |
| 課題・問題点 | 完成してから29年が経過しており、老朽化が進んできているため定期的な点検により計画的な改修が必要となる。 |

| | |
|--|---|
| 今後の展開・方向性 （国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等） | 公共施設長寿命化計画に基づき修繕を行うとともに、突発的な修繕に対応できるよう、施設の老朽化を確認する。 |
|--|---|

【総合評価】

| 区分 | 評価内容・指示事項 |
|----------------|---|
| 1次評価 （担当課長） | ①計画通りに進める 総合福祉センターの長寿命化を図るため、施設改修を計画的に進め、必要に応じ施設の大規模改修を検討していくこと。 |
| 2次評価 （副町長） | ※評価対象外 |
| 外部評価 | ※評価対象外 |
| 最終評価 （町長） | ※評価対象外 |